



TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

HYOUGEMONO 10

- 第九十八巻
- 第九十九巻
- 第一百巻
- 第一百一回
- 第一百二回
- 第一百三回
- 第一百四回
- 第一百五回
- 第一百六回
- 第一百七回
- 第一百八回

そんな、彼女はクーン!!
ゆらめき IN THE RAIN
KID A
時代は BODY MOVIN'
せんせい
レオン & ブラゴン
俺ら朝鮮さ行くだ
赤い唐辛子
朝鮮半島 窯景色
窯タイム カラーズ
エクスダス~さらば 窯大国~



へうげもの

Orube Furuta Toyotomino Hideyoshi Ujisato Gamou Satarou Ueda Ieyasu Tokugawa

HYOUGEMONO 10
YOSHIHIRO YAMADA

1869

HYOUGEMONO SINCE 2005
MORNING KC
KODANSHA

へうげもの

Hyouge Mono 10 山田芳裕

講談社



9784063728699



1929979005337

雑誌 42669-69

ISBN978-4-06-372869-9

C9979 ¥533E (D)

モーニングKC 講談社

定価: 本体 533円(税別)

다도의 물음에 영혼을 해왔던 전국시대 무장 추후의 오리베
전해 노무나기에게 장대한 세계성을 다성 선노 리쿠에게 심화된 정신성을 배워
오늘도 '요우게모노'의 길을 달린다. 황노래 보았노라 조선말도 기미 흥물
히메요시의 무모한 해외 침략 속에서 오리베 할랑단은 도자기 혁명을 행해진다
죽느냐 사느냐 무(武)나 통류나. 그것이 터더욱 운명이다!!

茶の湯と物欲に魂を奪われた戦国武将・古田織部。
天才・信長から壮大な世界性を、
茶聖・千利休から深遠な精神性を学び、
「へうげもの」への道をひた走る。
はるばる来たぜ朝鮮半島窯景色。
秀吉による膨張な海外侵略の最中、
織部密航団はやきもの革命を誓う。
生か死か、武か政か、それがますます問題だ!!



近頃は縁以外でも様々なものが、
柿右衛門やマイセン、
ロイヤルコペンハーゲンのような
美しさに固定した感がありやす
いや、それらの素晴らしさは
重々承知しておるのですが、
それだけになっちゃうと
どうにもさみしいやねえ……
私は桃山陶のような漉面造りに
こだわっていきたいと思ひやす
山田芳裕



Orube Furuta



Toyotomino
Hideyoshi



Ujisato Gamou



Satarou
Ueda



Ieyasu Tokugawa

1969

ESTABLISHED SINCE 2006
MORNING KCMORNING
KC
1969

Oribe Furuta
Toyotomino Hideyos
Uisato Gamou
Satarou Ieda
Ie-asa Tokimawa

へうげモノ

TEA FOR UNIVERSE. TEA FOR LIFE.

KITCHEN & A



Hyouge Mono

10

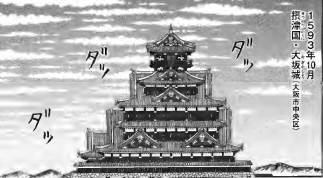
10

山田芳裕

YOSHIHIRO YAMADA

다도와 불옥에 임온을 빼앗긴 천국시대 무장 후루타 오리베
천재 노부나가에게 장대한 세계성을 다성 신노 리큐에게 섬멸한 정신성을 빼앗
오늘도 호우게모노의 길을 달린다. 왔노라 보았노라 조선팔도 가마 풍물
해내요시의 무모한 해외 침략 속에서 오리베 밀항단은 도자기 혁명을 맹세한다
죽느냐 사느냐. 우(武)나 문(文)나 그것이 더더욱 문제로다!!

1593年10月
 摂津国・大坂城（大阪市中央区）





第九十八席

「そんで、彼女はクイーン!!」



















太閤様は御齡の
せいかな何やら
不穏な御様子……

大陣への要領と
むやみな処置が
激しうなつて
おります……

早くに徳川が政
にて世を正す
べきかと



かような場で
漢はかな考えを
口にするでない
……

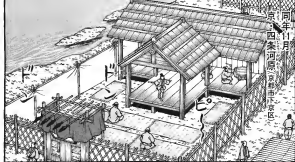
明智殿や
料休居士でさえ
できなかった
のだ……



清きも汚きも
存分に学び尽く
さねば……

次の新しき
世に進むこと
叶わぬ

同年11月
京・四条河原(京都市下京区)



たった三人の
客の前で踊って
やってんだ!!

文句垂れん
な!!



ほれっ!

三条通りに
織部正様が
お通りや!



それは奥に
行かな!

こっちの踊り
よりええわ!



もそっと
動かんか
おくに!!

ややこ踊りは
もう見飽いた
んや!!





この騒った屋敷が
見れうなるは
淋しいですなあ
宗匠……

なに……次の
伏見が屋敷は
もそつと面白う
遊るわ

されど改めて
眺めると
若氣の至りが
目立つのう……



いやはや
旅行に走つた己が
たまらなく
陥すかしい……

己を知る大事さ
が身染みて
わかる……



こちらこそ其の湯が
跡に頼まれて
光栄の極み……

同僚が誰
存分に使うて
下さりませ



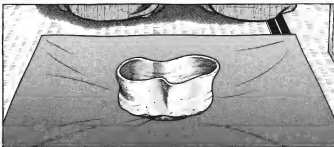
や……名護屋の
陣屋に続き
手伝うてもうて
かたじけのうござる

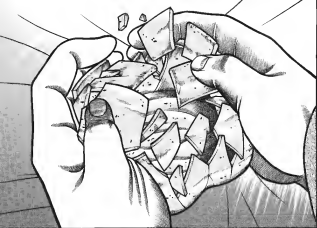
寺沢忠摩守
殿













北条より便り
は来て知らぬか
？

はい……
いまだ……



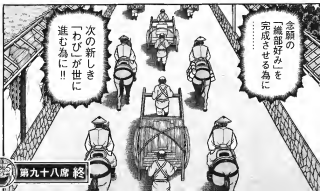
室造りにせよ
器造りにせよ
……

まずは手本が
要りますな



行きたい
……

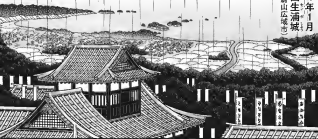
何としても
朝鮮まで……



念願の
「織部好み」を
完成させる為に
……

次の新しき
「わび」が世に
進む為に!!

1594年1月
朝鮮・西生浦城
(大韓民国蔚山広域市)



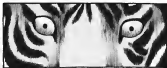


第九十九席

Ⅱ ゆらめき IN THE RAIN Ⅱ















小西殿には私が過故
咎分を受けた折に
……

小豆島にて助けて
もらった情りが
ありますからな



高山殿も雨雲船での
輸送やらで、多忙と
聞いたが……

なになに

私は小西殿の
手伝いをしてゐる
だけの……



……食みのある
物言いですな



手伝い程度に
止めておきたい
ものです……



小西殿にも三つの
面があるのですよ

武將……
切支丹……
商人……

私と異なるは
本性が数奇者では
なく商人だといふ
こと……



今度の唐入りで
小西殿は何やら一儲け
企んでおるよう見受け
られるのです

私の嫌いな南蛮の
きな臭い連中と
繋がってまで……



では
私はこれにて

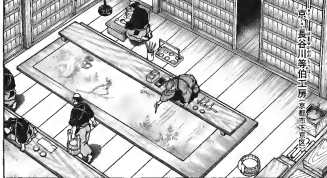
蒲生氏郷殿への
見舞いの品
しかと渡します



ま……あくまで
私の恩返し……

口外せずに
頂きたい







牧路の絵の如く
枯れたのう

ドバツと想いを
極し立てるでなく
ボソツと言で諭す
ようになった……

水戸製の僧で、永平寺の名手



おかげさまで注文
の揃えぬ日々が
続いております

弟子も増え
今では長谷川一門
を揃えるまでに
なりました



な……何も
左様な……

あの神が出来たは
御茶頭様の器が
あったればこそ
……



とござる……



平伯殿には
謝らねばと願うて
いた……

あの天道虫が神を
どなりつけた
私の眼の無さを
嘲うてくれ



申し訳ござ
いませぬ!!



何も申して
おら

も……
もはや
その……

御茶頭様の好みに
適うものを描ける
心境ではござい
ませぬゆえ……!!



利休様が亡く
なり……



二代目と期待
していた俣にも
先立たれたの
です……



今や私の野心は
消え……

故郷は能登の
風景がよぎる
ばかり……

とても伏見のお屋敷
を飾らん胸躍る襖絵
を描けそうにないの
です……

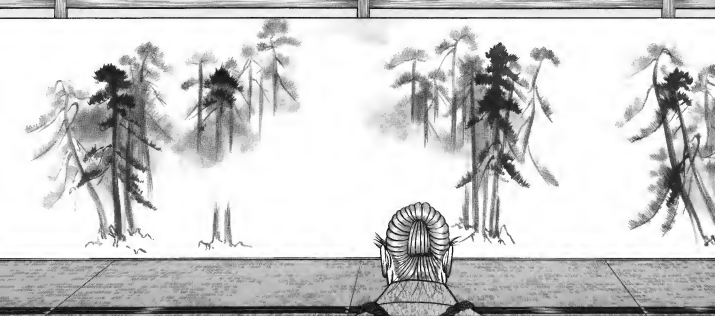


決して左様な理由ではございませぬ!!















点^たて直
せい!!

ぬるい!!!

第百席

KID A







よお



真か嘘か
朝鮮にて叛旗を使い
疑わなかった由……

座敷一帯を領す後任は
いまだ決まっておらぬ
ようです



太閤様は若い先を
案じ 跡継ぎの件や
全国の軍機を急いで
おられるよう……

この先 波多野が
如き外様の者は
断じうなつて
きますな……



俺の朝鮮へ渡る
金でも水の泡ぞ

波多野率いる松浦党
の支援がなくなれば



まずい





まあお前の性では
どこにおろうが
破門は目にみえて
おる

あの氣品盛き
土佐一門が よう
お前を受け入れた
ものよ



あの等伯はんが
まさかこんな
けったいなモンを
描いとるとは……

今一度等伯殿に
入門し直しよう
なったか……？



持って生まれた
下らん貴家の品が
のう



わしにも
品ぐらいある
わい



わしは摂津を
牛耳つとった
荒木村重の倅や







武家のモン
なぞ敬えん
のや

あんたもな
織部正はん



よからう
.....

さほどに武人を
憐うなら.....

お前の膝で
私の腰を
抱かしてみい



同年4月、横濱國有林
宮前神社境内





それがし 岸藏家
には世話になって
おりますゆゑ……

領主が改易になる
と聞き 居ても
立ってもおられず
……



お前が口を挟む
事ではないわ

心得ではあり
ますが……

何分あそこは
殿下の御命令たる
武家の義をつくるに
欠かせぬ事にて……



口はばつたい
のう左介ッ

何が望み
じやッ！

殿下の前で
吐は隠せぬ
ようぞ……

されば
単刀直入に
申し上げます



もし後醍醐を御決めに
なっておられぬ
のなら……

是非に
寺沢志摩守広高殿を
推しとうございます



お前の弟子
であり……

美濃は赤木城の者
ゆえ 密事情にも
明るいわ……



寺沢殿は子飼いと
申して良いほど
殿下の俵頼も厚く……

赤澤屋の普請や
兵站に係わり
彼の地を熟知して
おりますゆえ……

うってつけの人物
ではないかと









この金地に
唇の紅痕は
……!!

「……」



岩佐又兵衛という
絵師のものに
ございます

ぜひ繪様の御恩処
に飾って頂きたい
描かせました



北政所様に拝啓
したものを見せて
描写をば

きつと繪様も
この繪に母情を察し
すやとお腹りになる
ことでしょう







連海の企ても
首の皮一枚
保てたわい……

あとは寺沢殿が
松浦党をどう
扱うか……



マ……

天道虫が機に
影響されたは
一目瞭然

あれがなくとも
お前は描けたの
か……?



わしの手柄
やだよ

あの太閤さんを
罵ばせたんや
からのう



岩佐又兵衛

まだまだ武人が
腰を抜かす程には
至っておらぬ



ザッ

ザッ



そして
至らずば

お前に
荒木殿の事は
語れぬな



果たしてこやつの事を
を父までに語めて
よいものが……

何故か肉親の
如く 迷うて
しまうわ……



だが嬉しくも
ある……

また一匹
数奇ムジナが
増えるは



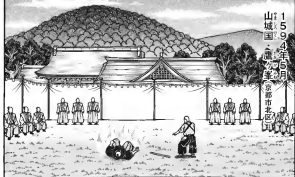




第百一席

時代はBODY MOVIN'

1594年5月
山城国・嵐山
京都市北区









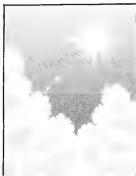
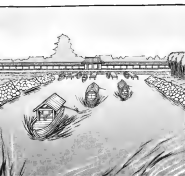
この家姫 徳川様の
御名を汚さぬよう
しかと努めとう
存じまする



悪わぬ奴様にな
ございましたな
……

やはり殿は
「仇たす悪」の
言葉に……

貴殿を悪い浮か
べられましたか
……



同年8月

伏見・太閤隠居城

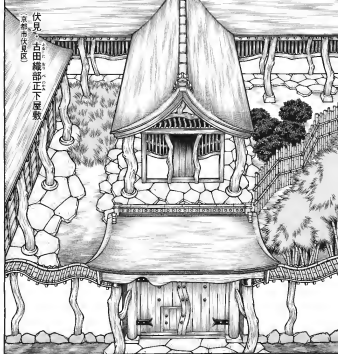
伏見城

(京都市伏見区)





伏見 古田織部正下屋敷
京都市伏見区



そうであらう
そうであらう
上田殿っ

他の大名屋敷とは
一線を画すが
筆頭茶頭という
ものよ！







さあ!

小堀邸へ
茶を喫みに
参ろう!

ズダッ

ズダッ



か...

格好良い



私にも
わから

んぷ

っまっ
きん



消岩をぶん投げ
たような迫力に
加え...

とって付けたが
如き 投げやりな
銘の響きが!!!



お...俺もいずれ
屋敷や器を造りし
折には...

左様な銘を
...

伏見・小堀新介屋敷
（京都市伏見区）



いやあ
御茶畑様とは
ご縁がありまする



それにしても
端正な屋敷に
ござるのう

さすがは
あちこちの
番頭役を務めた
小堀殿にござる



ふ……ん



この新介 太閤様
召し抱えられ
頂いた屋敷の場所が

まさかあの
小田原で出会うた
御茶畑様のお隣とは



庭も壁も門構え
なども……

まだまだ
工夫の余地は
ございます



織部正様も
上田様も……

真にそこが良い
屋敷と お想ひ
ですか……？



まったく……
近頃の作介は
いつもコッパに
なってる……

元服を過ぎてから
というもの
ませてませて……



せめて普請の半分は
それがしに任せて
下されば良かった
のに……

織部正様の
あれ程の屋敷の
隣にあるのが
恥ずかしい限り……



せつかくの
機会ですの
で……

一つ總部正様に
伺いたし事が
ございます



いつぞやの
少年数奇者も
一瞬の指南役に
なり申したかつ

いや……常に
工夫を案ずるは
良いことぞつ



数奇の極意とは
何でしょうか
……



故に何うて
おきたいのです
!!

一番大事な
極意を……!!



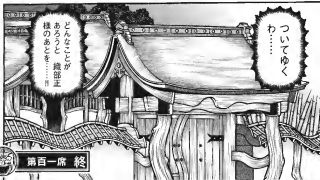
これ
作介っ

それがしは
總部正様に如き
立派な数奇者に
なりたいたいです









1594年9月

客外・伏見・山本元・京都市伏見区



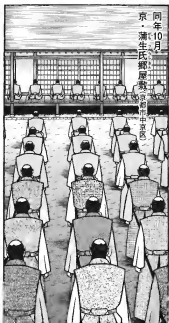
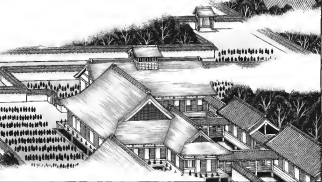


第百二席

せんせい























俺ア毒を盛られて
殺られるかも
しれぬエ……

さりとて
誘いを断りヤア
逃げたと吹聴
されらァ……

こんな時ア どう
すりヤアいいんだ
茶の湯の達人さん
よオ……!?



御走に入り
蒲生殿の病状は更に
悪うなつたと聞く
……

それでも茶に誘うは
何か決死の覚悟が
あるのだろうか……

返す返すも
心残りは 私と
蒲生殿の不仲……



容態を案じておる
としかと憶えて
下され

てめえと
蒲生の心配
かよ!!

致し方
なからう

貴殿が悪態ばかり
吐いておるゆえ
誰も心配しの方
なるのだ



優秀・
浅野正殿も
嘆いておったぞ

朝鮮では 命も
間かず逃走して
おったと……

己が功名に誇り
手がつけれ
なかったと



互いの言い分が
異なるはよくある事
……

だが 常日頃の
態度で皆は
浅野殿の方を
信じよう



悪いのは
浅野だぜエ!!

扶持米すら寄越さず
俺を晋州城攻めから
退かせやがって……

それを取次の立場を
良い事に 太閤にも
報告しなかったん
だからよす!!





いっそ武人らしく
正々堂々膝う相手を
嫌いなされ

それでも己を
曲げぬと申すなら



このままでは
精神の心証は更に
悪うなりますぞ……

陣地際に響を
震られたとて
誰も取り合わぬのう
なり申す……



それがしなら
絶交状を出し
申す！

太閤様の叱責を
恐れ 生半可に
付き合ふより……

公に相手と係わりを
断つ潔さが 男を
上げてござる！





絶交状
 第一 断る
 第二 断る
 第三 断る
 第四 断る
 第五 断る
 第六 断る
 第七 断る
 第八 断る
 第九 断る
 第十 断る
 第十一 断る
 第十二 断る
 第十三 断る
 第十四 断る
 第十五 断る
 第十六 断る
 第十七 断る
 第十八 断る
 第十九 断る
 第二十 断る
 第二十一 断る
 第二十二 断る
 第二十三 断る
 第二十四 断る
 第二十五 断る
 第二十六 断る
 第二十七 断る
 第二十八 断る
 第二十九 断る
 第三十 断る
 第三十一 断る
 第三十二 断る
 第三十三 断る
 第三十四 断る
 第三十五 断る
 第三十六 断る
 第三十七 断る
 第三十八 断る
 第三十九 断る
 第四十 断る
 第四十一 断る
 第四十二 断る
 第四十三 断る
 第四十四 断る
 第四十五 断る
 第四十六 断る
 第四十七 断る
 第四十八 断る
 第四十九 断る
 第五十 断る
 第五十一 断る
 第五十二 断る
 第五十三 断る
 第五十四 断る
 第五十五 断る
 第五十六 断る
 第五十七 断る
 第五十八 断る
 第五十九 断る
 第六十 断る
 第六十一 断る
 第六十二 断る
 第六十三 断る
 第六十四 断る
 第六十五 断る
 第六十六 断る
 第六十七 断る
 第六十八 断る
 第六十九 断る
 第七十 断る
 第七十一 断る
 第七十二 断る
 第七十三 断る
 第七十四 断る
 第七十五 断る
 第七十六 断る
 第七十七 断る
 第七十八 断る
 第七十九 断る
 第八十 断る
 第八十一 断る
 第八十二 断る
 第八十三 断る
 第八十四 断る
 第八十五 断る
 第八十六 断る
 第八十七 断る
 第八十八 断る
 第八十九 断る
 第九十 断る
 第九十一 断る
 第九十二 断る
 第九十三 断る
 第九十四 断る
 第九十五 断る
 第九十六 断る
 第九十七 断る
 第九十八 断る
 第九十九 断る
 第一百 断る







1595年1月
伏見・織田有楽斎屋敷(京都市伏見区)



いや……正月の
縁起はもとより
今日は頼み事で
参ってござる



既に太閤様の
承認を得て
おり申す

まあまあ



それがし九州は
唐津へ出向くゆえ
しばらくの間……



聞きとうない
のう 古殿よ

どうせ厄介な
事だもう



貴殿に
筆頭茶頭役を
お願いしたく

第百三巻

レオン&ドラゴン

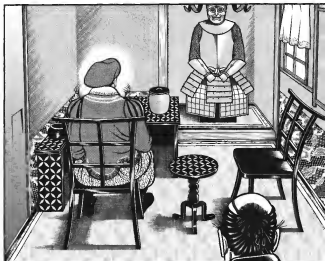






同月
京・蒲生氏郷屋敷
(京都市中央区)











こんなヤサ男に
挿まるかい！



待て！！







何だこの
銀の屑はア?



絶交状 しかと
拝見した

……まあ
薄茶でも喫むが
よい



猛毒の茶ゆえ
匂いを嗅がれぬよう
蓋をしておる







古織殿を
許せなかった
のも……

筆頭茶頭にならんと
する葉の大きさに
妬いていただけやも
しれぬ……



フッ

ぬくぬく買った
お前にやア 葉が
足りぬエのさア



そう……

数奇
でもな



これだきやア
言っとく

織部正が介錯を
引き受けたはア

利休居士を見送った
堀川への誓いを消す
ためでもあったつて
なア



己が口からア
言えぬエとよ

用は済んだ

じやアな





その具足を
持ってゆけ

信長公御着用
の具足を



もはや刻は
流れ……

亡き上様の
心意気を継ぐは
太閤様とお前しか
おらぬ……



お前は若い

殿下や私に
できぬ事も
お前ならやれる



日本の本を超え
四海を疾駆す
真の竜になるのだ
!





天下御免の
伊達政宗さア



よかろう



ならば
「伊達」という
価値を……

上様以上に
高めてみる











限りあれば

吹かねど花は散るものを

心みじかき春の山かぜ

蒲生氏郷

幕百四席

俺ら朝鮮さ行くだ



養生様の群像で
お疲れでしょう
に……

お身体に
障りますよ
あなた……

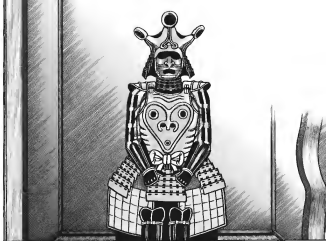


おせん

俺が死んだら
如何する……？









朝鮮まで付いていく
んは、そのためや
ないかい？

向こうで何ぞ
オモロイもんを
見つけるために
のお！



これ
又兵衛！

笑うておる場合
ではないぞ！

これにも勝る
機嫌を 早う
仕上げい！



くれぐれもお気を
付け下さいませ

今度の事は
あくまで断罪で
のお務め……

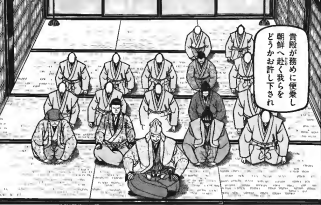
達海の事は
内密に……



子らにも
よろしゅうな
おせん

父は大志を抱き
陰謀に臨むのだ
と！





貴殿が務めに便乗し
朝鮮へ赴く我らを
どうかお許し下され



絵師の
若佐又兵衛

刀藏師
本阿弥光世殿
にござる



同行するは
我が忠臣十名に
織部十作が三名……

家大將
加藤景運殿……



近頃は今般に
心奪われており
まして……

織部正様より
渡海の話聞き
居ても立っても
おられず……



研ぎの世話に
なっておる貴殿殿
までも……

いやいや
お恥かしい



ところで、漆多殿が
率いておった松遊党
との関係は……

いかように
なる……



今では半数の者
しか残っており
ませぬ……

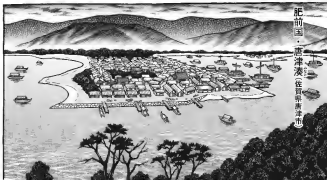
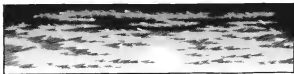
その残党すら
太閤様の代官たる
それがしの命には耳を
貸さぬ始末にて……



承知のとおり
漆多殿は改易となり
常陸は筑後山へ遷され
ましたが……

松遊党は
この沙汰に怒り
次々と岸線を離れ
申した……













まずは釜山の
湊を目指し……

そこで寺沢殿と
別れ、我らは小船
にて川を上り……

目的地が戰場へ
と向かう寸法ぞ



特に又兵衛！

お前は戰場は
初めてゆえ
重々気を付けい！



フツ

わしをただの槍頭
と扱うたら
大間違いや！



釜山までは
寺沢殿が護って
くれるが……

その先はいつ
敵軍に襲われるか
わからぬ……

和睦が進んでおる
とはいえ、戰場に
おる事を忘れずにな



何でもあらへん
光悦はん



親父の下らん血の
せいで、喧嘩は
慣れとんのや！

親父の血？



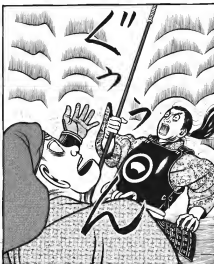
それを
貸せっ！

堆を撥かった
なら 手入れ
くらいしかと
せい！

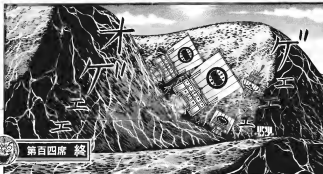


な……
何や!!!?

う………
海を見ろ!!







1595年3月中旬
朝鮮・釜山浦（大韓民国釜山広域市）



「キムチ」と申す
朝鮮の漬物に
ございます

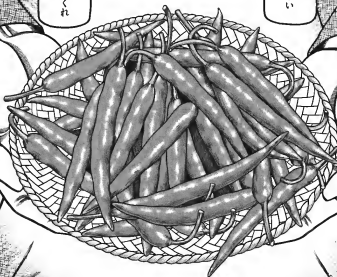


船酔いが
おじどいようで



南蛮渡来の
芥子にござい
ます

この辛さが
食を進めてくれ
ましょう



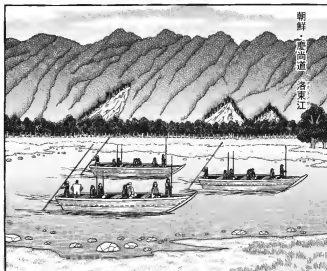
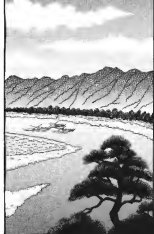
第百五席

赤い唐辛子









朝鮮・慶尚道 洛東江



山頂を見れば
桃杓色や桃色の土が
露に……

井戸・茶碗の
あの色合いは
かような土による
ものでしょうな……



ご覧下さい

瀬戸に似て
山々の峰が細くう
尖っております

良い陶土が採れ
そうですよ
織部正様……



土を持ち帰り
器を作らば 一財産
築けそうですね

まだ焼き方も
わからぬのに
早計過ぎるぞ
光悦殿



降りろ

我らの案内は
ここまでだ



む……

何故に岸へ
……



わかっておるな
権部正

我らに全ての
面倒をみる義理
などないことを



か……密場は
まだですよ！

この先は遠基里
という地だ

奥へ進めば
密場の一つや
二つ見つかるう



心得た

頼みますぞ

されど我らが
帰路につく折
には……



麓山で
待つておる











我らは貴殿らに
作陶を学びに参った
のだ……



買物
買物の
間の孫六
買元

謹んで
貴殿らに差し
上げ申す



それ程の物を
あえて進呈
せし意を

何卒
汲み取ら
れよ！



決して錦を
懸り合いに棄たの
ではない……！

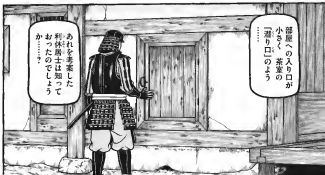
目の本が武人
にとって 刀は
己が分身……



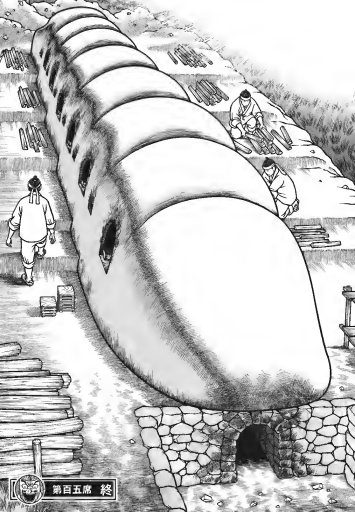












1595年3月中旬

朝鮮・慶尚道 法基里洞

(大韓民国梁山市)



ついに
訪れますな

誰もが夢見し良器
を大量に造れる
日が……！



第百六席

朝鮮半島蒸景色



















ほう……



ペロッ



美濃と同じ長石の
入った土なれど

こちらはスルッ
となめらかぞ



その社^ツ秘色の土は
またまた選り物が
多い



これが井戸茶碗
に用いる土……

何か手に持った
感触が軽い……

粉青沙糖には
もつと奥の山土
を使う

景徳鎮で使う
高嶺山の土に
近い物だ

湿しり気の少ない
長石の結晶ゆえ
硬く白く
焼き上がる



その高嶺山に近い
土を使えば……

いかにゆがんだ
形にしたとて
割れぬ強を
造れるな……

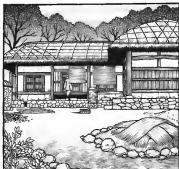
そこまで土質が
違うとは……

「志野」で白く硬い
物を目指しても
できぬわけだ……

















是非かような
器を造って
もらいたい!!

たとえ村人に
嘲笑われよう
と……!!



1595年4月初旬
朝鮮・慶尚道 法蓮里
（大韓民国慶山市）



窯タイムブルース





いやいや 日の本の
名物をぞったまで

この酒の焼きの
良さに助けられた
のでしよう



これは良い
お酒だ

どっしりと均整
かたれ 風格
すらある……

素人筋とは
思えんよ
光悦さん



ここに焼けて
共に飲がんが
光悦さんっ

それが良いっ

これ程の物なら
どんな酔人にも
納められますぞ！

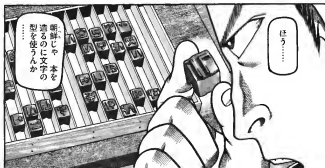


ハ
ああ



ならば 長谷部殿
が名刀を添えて頂け
ますかな？

それは
てさん！





言葉はわからんが
筆と小刀置してまい

ちよつと
オモいこと
しようやないけ



長に書かれて
「勝勝」を解つて
るんだ

このやり方なら
決山読れるでしょ



いや……おかげで
藝術や作陶をみな
心得てき申した

あとは日本の本からの
注文に、いかに応え
てくれるかが……



ただし、公には
せぬよう

敵將との取引
は、こちららも
まずい



密事は神を
深めますの



好みの切替と金子
を、こちらへ送る
がよい

てきた者は
洛東江側に
密国へ送ろう









正義との子じゃないらしく、立場がますますなったのでしょう

雲性書と一緒に法基里に捨てられてたのを、お爺が拾ってくれたの……



私は元々……

熊川の両雄の子なのよ……



だから縮しくて……



だからどうしても両雄が使う白い器が好きなになれなくて……

それにお爺はかたくなに昔からの器器を作り続けてたから……

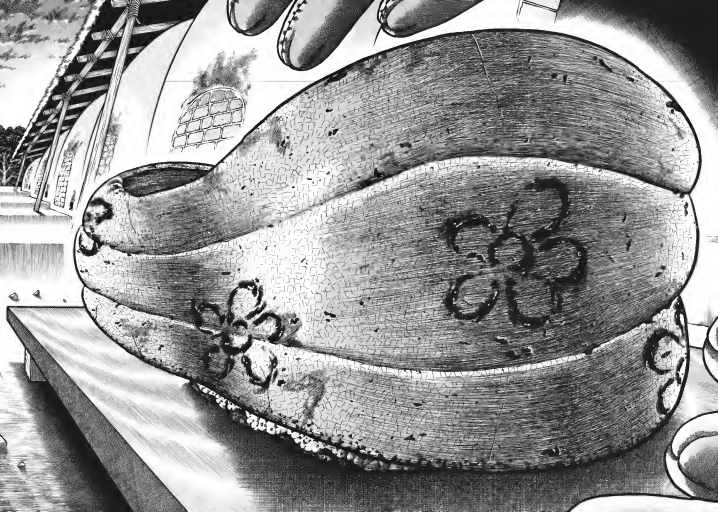
私の好みも白髪とそっちの方に……

















この感覚を
あらゆる者に
味わわせたい!!!

この器にて世を
笑福の天地へと
変えるのだ!!!



英子殿!!



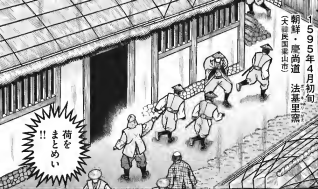
目の本で
手伝うて
くれぬか!!!

我が野望の
成就を!!!





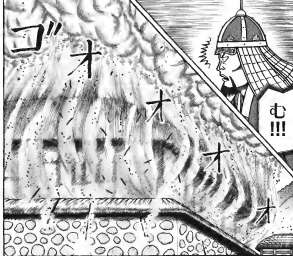
1595年4月初旬
朝鮮・慶尚道 法基里寨
(天龍民國慶山市)





第百八席

エクソダス～さらば燕大国～









この戦しや
わしは行かんが
……

なに お前が
おらんても
くたばりやあせん



して……

共に日の本へ
来る気になつて
くれたか？



のう
葵子殿……

生まれや育ちに
拘らず 人生は
過期なものぞ
……



左様な人生への
最大の復讐は
……

笑うて暮らす
事とは思わぬ
か……？



皆を呼へ
!!!

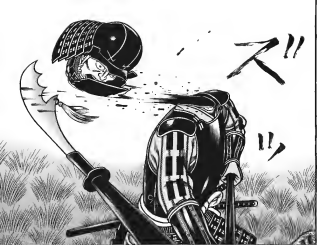
倭人が
いたぞ
!!!



ついて
きて!!

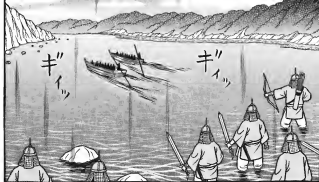
私が案内
する!!





馬鹿者!!!









……



て……ずるきり
「未知か」と……

松浦寛は既に
十日前 露津
へ戻りました



もはや寺沢権の軍船
を借りるか……

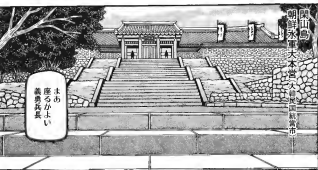
いや……

これ以上
寺沢殿に迷惑は
かけられぬ……



しもうた

松浦寛に
期待しすぎた
か……





我らに軍船を
貸して頂ければ

瞬く間に 叔らの
船を撃沈せしめて
みせます

李舜臣將軍

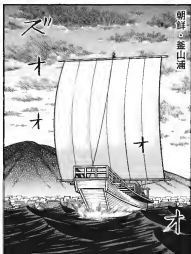
知っていよう
な 兵長

今 倭国とは
和睦交渉中
にあることを

小競り合いすら
してはならんと
王宮よりお達しが
出ておることを













TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE Hyouge Mono 10

YOSHIHIRO YAMADA ●●●●●

へうげもの
10巻

1969

SHOJOHMONO SINCE 2000
MORNING KC
KODANSHA



ORIE FURUTA TOYOTOMINO HIDEYOSHI UISATO GAMOU SATAROU UEDA IEYASU TOKUGAWA

2010年1月22日 第1刷発行（定価はカバーに表示しております。）

著者 **山田芳裕** (Yoshihiro Yamada 2040)

発行者 **五十嵐雅夫**

発行所 **株式会社 講談社**



〒112-0001 東京都文京区春日2-12-21

電話 **編集部 03-3945-9155**

販売部 03-5385-3608

併丁 **シマダヒデアキ (Local Support Department)**

印刷所 **大日本印刷株式会社**

製本所 **誠和製本株式会社**

本文装版所 **豊田印刷株式会社**

ISBN 978-4-06-372889-9

N・D・C 726

220p

19cm

Printed in Japan

本書の無断複製（コピー）は著作権法上での刑罰を招き、禁じられています。

併丁本（但丁本）は購入者宛名を明記のうえ、小社営業部に郵送ください。

過料小社費にてお取り扱いいたします（電話03-5385-3608）。

なお、この本についてのお問い合わせはモーニング編集部にお願いたします。

「へうげもの」第10巻は、

モーニング 08年26号、28号、30号、32号、34号、36・37合併号、41号、43号、45号、47号、49号に掲載された作品を収録したものです。

編集部では、この作品に対する皆様のご意見、ご感想をお聞かせしております。

また、今後「モーニングKC」にまとめて1冊の作品が読みやすくなる編集部までお知らせください。

なお、お読みいただいたお手紙、お礼の手紙は、ご記入いただいた個人情報を念めて讀者にお返しすることがありますので、あらかじめご了承ください。

〒112-0001 東京都文京区春日2-12-21 講談社「モーニング編集部」モーニングKC部

KODANSHA TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE
HYOUGE MONO 10

この漫画はフィクションにて候。実在の人物・団体等と無関係にて候。

Ujisato Gamou



蒲生氏郷

1556 (弘治2) 年、近江国生まれ。信長の女将にして戦国トップエリートの人。秀吉の重門に降り、体よく殿後へ左遷。伊達政宗との壮絶な「死に茶」バトルで「へうげもの」に多大な貢献を果たす。1595 (文禄4) 年死去。享年四十。好きな色、クロームシルバー。



Kiyomasa Katou

加藤清正

1562 (永禄5) 年、尾張国生まれ。秀吉の妻・淀殿所の寵姫 (よみきかせ) を受けてより、「虎」一面の元祖猛虎党。朝鮮出兵では超人的な闘争心を遺憾なく発揮。敵軍から虎以上に恐れられた。カンムリワシ・具志堅用高とは別人。好きな色、イエロー。

Masamune Date

伊達政宗

1587(永禄10)年、出羽国生まれ。關から天下を獲る戦国最大の戦国武将。小田原で舞臺に昇る際は白装束。初上洛の折は金の十字架。古田織部プロデュースで戦国スターダムをビツと駆け上つてきますんで夜間光番。好きな色、スカリーレット。



へうげモノ ⑪

タイタニック!

'10年、炎天夏発売予定!!

本阿弥光悦
Kouetsu Honami

1568(永禄元)年、山城国生まれ。鎌倉より続く名門刀楽師の御曹司。高い技術とセンスで諸大名御用達を獲める。権部との交友を通じやきもの関係。好奇心あまって朝鮮密航団にも参加。のちに日本初の陶芸家となる。好きな色、セピア。



TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE

Hyouge Mono

10th
KODANSHA

俺ら東京を走った / 青柳三 1984

津軽海峡・冬景色 / 石川信雄 1977

Exodus / Bob Marley & The Wailers 1977

Summertime Blues

the Who 1970

Robert Johnson 1936

CRAZY KEN BAND 2002

BEASTIE BOYS 1998

1998

1989

Kid A / Radiohead 2000

せんせい / 藤子 1972

Body Movin'

ゆらめき IN THE AIR

HYOGE MONO SINCE 2005

1869

MORNING KC